

前中期経営計画(2023–2025)の振り返り

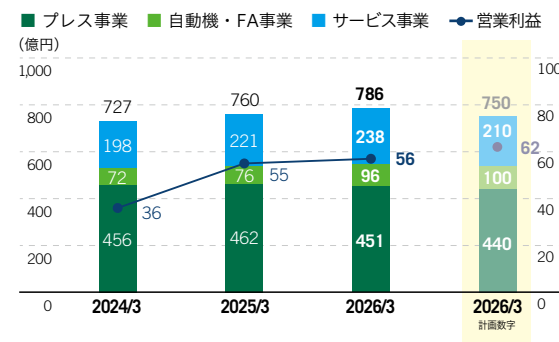
2024年3月期～2026年3月期

前中期経営計画では、事業ポートフォリオの変革、新たな付加価値の創出、経営基盤の強化、環境対策・社会貢献、資本政策を基本施策として取り組んできました。その結果、サービス事業やFA事業の拡大、DX・AIソリューションの展開による生産現場の高度化、収益力の改善など、将来の成長に向けた基盤づくりを着実に進めることができました。一方で、市場環境や顧客ニーズは大きく変化しており、さらなる事業変革と企業価値向上が求められています。前中期経営計画で培った成果と課題を踏まえ、当社は2030年に向けた新たな中期経営計画「AIDA Growth 30」に挑戦していきます。

前中期経営計画 経営ビジョン

環境・省エネ・技術進歩を支える先進企業として社会に貢献する

財務目標達成状況



売上高は計画目標750億円を達成し、事業ポートフォリオ変革やサービス事業の拡大が進展。一方、EV市場の成長鈍化や原材料費・人件費上昇の影響により営業利益は計画目標62億円に未達。(2026年3月期)

※2026年3月期以降において、各セグメントに含まれる事業の範囲及び分類基準を見直しています。なお、本グラフは旧分類基準に基づき算出しています。

前中期経営計画期間中の自動車産業の動き

- ・各レガシーOEMはBEV一本足の投資計画を見直し、HEV／PHEVを含むマルチパスウェイ戦略へ回帰
- ・特に米国の政策不確実性と需要鈍化がBEVの急速な普及を阻み、各OEMの投資を抑制
- ・中国製BEVが安価で輸出される低価格攻勢は、世界の自動車産業の構造全体を揺るがしており、設計・サプライチェーンの改革を迫る
- ・自動車の主要な開発領域は車体ハードから電池・ソフトウェアへシフト

主な施策と取り組み	プレス事業	高速プレスの生産体制の整備・増強、大型機受注の収益性改善
	自動機・FA事業	高速プレスの周辺システムの内製化、自動化ソリューションの拡充
	サービス事業	近代化・予防保全ビジネスの強化、サービス人財の確保・育成
	新たな付加価値の創出	環境配慮型製品の開発・販売、DX・AI商品の拡充
	経営基盤強化	人的資本経営の推進、生産管理の高度化、環境・安全・ガバナンスの強化
	資本政策	成長投資・M&Aの推進、資本効率向上への取り組み

成長に向けた課題認識

社会の変化

- ・世界経済の不確実性が一層高まっている
- ・ESGへの企業としての向き合い方が問われており、環境問題や人権問題などが企業の持続性に影響
- ・人的資本経営を具体化し、若手リーダーを育成、社員のエンゲージメント向上の状況を把握

市場環境の変化

- ・軽量化に向けて、成形素材の変化と成形方法の一体化が進む
- ・地域紛争・政治的対立・関税等による物流・サプライチェーンの制約
- ・AI活用範囲の拡大、DX推進機運の高まり
- ・環境負荷低減に資する機械装置への需要の高まり

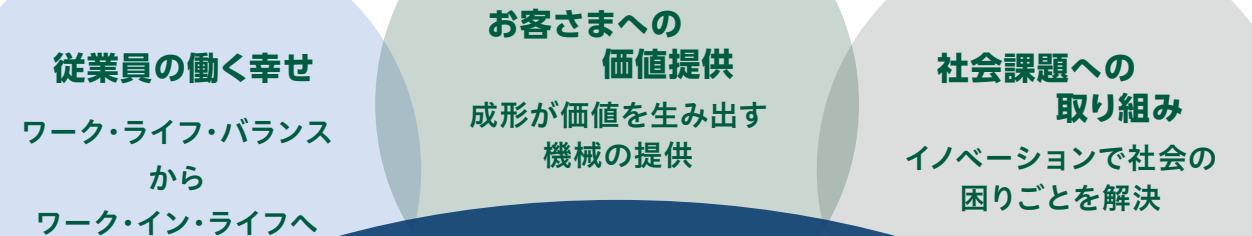
新中期経営計画「AIDA Growth 30」の策定

新中期経営計画(AIDA Growth 30)の概要

2027年3月期～2031年3月期

パーパス 成形が価値を生む社会へ

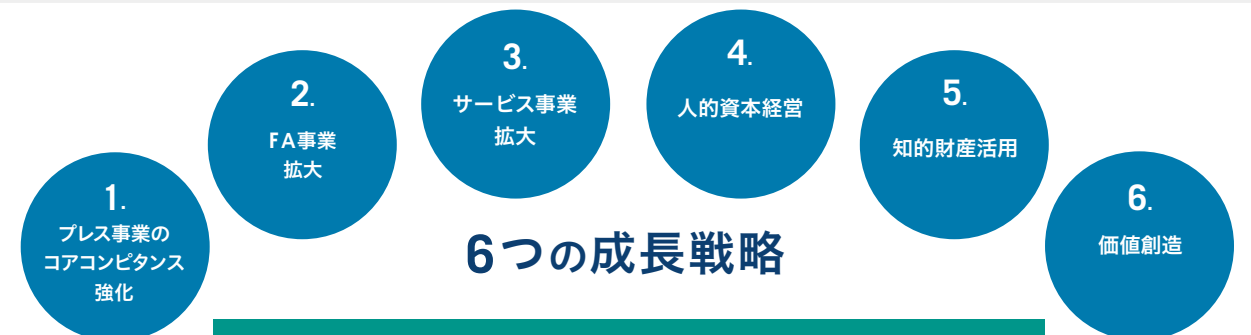
2030年に向けて AIDA Growth 30 を展開する



存在意義と責務 感動する成形を

過去の成功体験の壁を乗り越えるために、新たな発想でイノベーションを起こしていく。

- ✓ 働く楽しさ・楽しみを日常生活の一部として感じていく環境、ワーク・イン・ライフの思考へ
- ✓ 社会課題の解決に向けた取り組みにて価値を創造し、お客さまや社会へ貢献
- ✓ 人的資本経営の実現に向けた取り組みを具現化



6つの成長戦略

中期経営計画「AIDA Growth 30」を達成するには

成長戦略6項目に優先的に取り組む

安定的な収益力を確保し、成長・発展していく

資本コストを意識した経営を推進

中期経営計画基本施策

3事業経営
コア強化

経営基盤強化

資本政策

環境対策・
社会貢献

2030年ビジョン

社会的価値と経済的価値のトレードオンを目指す